

富山市総合計画審議会「第4回 協働・連携部会」 議事録

日時：2016年9月29日（木）10:00～11:40

場所：富山市役所 第3委員会室

出席者：(順不同)

中村和之	富山大学経済学部学部長 教授（部会長）
今井壽子	NPO 法人花街道薬膳のまちを夢みる会理事長
上口勇三	大沢野地域自治振興連絡協議会会長
川田文人	一般財団法人北陸経済研究所理事長
高田敏成	細入自治会連合会会長
宮口侗廸	早稲田大学教育・総合科学学術院教授
吉田良雄	山田地域自治振興会会長

企画管理部 本田部長、中田次長、西田次長、前田参事、井村主幹
財務部 立花次長
市民生活部 大森次長

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 第2次富山市総合計画前期基本計画（案）について

○資料「第2次富山市総合計画前期基本計画（案）」に基づき事務局より説明。

部会長

- ・ どの点からでも結構だが、お気づきの点、お考えがありましたら。

委員

- ・ 合併から10年経った。富山市は広大な農山村部を有しているが、全体として都市部の話が多い。都市部は空洞化や人の付き合いが希薄化する中でのコミュニティの新しいやり方を探さなければいけない。農山村部は過疎化によって従来のコミュニティが維持できなくなっている。面的には広いわけで、分けて書く必要があるのでは。過疎化が進行しているところではどうやって活気をもたらすか。その場合、国の方では小さな拠点や集落ネットワークという言い方をしているが、国の地方創生本部の資料では基本的に書かれていて、新たな地域運営組織を作る必要がある。184ページに小学校区が単位とあるが、全国的にも新旧小学校区という言い方をしている、住民はこの単位で育っている。富山市として関心が不十分ではないか。都市ではない地域社会の価値というのがある。コンパクトシティとは農山村部をなくすことではない。農山村は農山村としていい状態になって、都市部においてばらけているのを集約することによって魅力を作り出すことである。農山村部のところをもう少し書けないか。

部会長

- ・ 富山市の多様性をどう反映させていくか。合併によって中山間地と都市部を合体した自治体になったが、逆に他の自治体が抱えている課題を一体的に取り組めることが富山市の強みである。

委員

- ・ コンパクトシティをはじめて読んだ場合、中山間地をなくしてしまうと思うのでわかりやすく解説してもらいたい。191 ページの公共施設の見直しについて、中山間地は当時の町村の思い入れを持ってつくった施設もある。その経緯を調べて目標の数値にあげていただきたい。なくなったら、地域の活性化も薄れてくる。そういうことも十分に配慮していただきたい。

部会長

- ・ 公共施設の見直しは全国的な流れ。1 つは施設の長寿命化・集約化を図る。財政的な制約の範囲でどうやっていくか。社会的な環境が変わった中で、公共施設の新しい役割、あるいは広域化もある。集約してもサービスを低下させないために議論が必要。

委員

- ・ 中山間地の過疎地域は厳しい状態が続いている。鳥獣被害が出ている。旧富山市と新しく加入した中山間地とは考え方の違いがあり、理解されない面が多い。194 ページの人材の育成についても、山のことをよく知ってもらって記述してほしい。電気柵があってもイノシシは減らなことを平野部の方がわかっているかどうか。草刈りについても同様。よく理解していただいて山があっても平野が育っている。若い人が出て行く中、苦しい状態でがんばっているので、人材育成をしてもらって、中山間地をよく知ってもらって意見を言ってもらいたい。

部会長

- ・ 合併前の旧自治体で培ったノウハウをスムーズに継承しながら対応していくことが必要。194 ページの富山市の状況を踏まえた①～⑤がある。

委員

- ・ どのようにすれば、成果が上がってくるのか。ひとつづくり＝まちづくりとした場合、様々な問題がある。42 万人を対象としたひとつづくりは、協働という中に入ってくる。地区センターでの取組の制約について検討すべきである。ふるさとづくり美化作戦を使って、どのようにコミュニティをつくるのか。大沢野には市立の公民館はない。全体の計画が出たときに、いろいろな制約があるが、組織的なものが必要。笹山市の合併時には 100 人委員会があった。そのような取り組みが必要。

部会長

- ・ 住民との協働をどのように進めるのが重要。事業をきっかけに他の活動に広げる仕組みづくりが重要。

委員

- ・ 全体としてはしっかりつくっているという印象。協働意識の向上があっても、ボランティアなどどのようにしたら参加できるのかわからないので、市民への機会の提供、具体的策を書き込めるか。中山間地の草刈りなどのボランティアの仕組みをつくっていくなどは 1 つの方向性としてある。子供の貧困、高齢化の問題で、地域食堂の運営を検討してもよいかと。高齢化が進むと、行政の一部を市民が担う必要がある。無理なくどう参加させるか、検討する必要がある。女性の参画について、労働参加率は高いが、問題は管理職の比率が低い。企業の責任も大きいですが、社会としてのサポート、

シングルマザーの支援も記載してよいのでは。シビックプライドの醸成だけでよいのか、議会の問題で富山市のイメージは下がった。このようなことが起こらないために、1つのインフラとして、シビックプライドを作っていくうえで、行政の透明化、情報公開を積極的に行うことも市民が自分たちのまちとして意識していくために重要なことである。そういうことをシビックプライドの中で、語ってもらいたい。

部会長

- ・ 市民にとって異なる多様な状況がある。このような多様性をどのように活かしていくか。共生社会という言葉がある。議会と行政は違うが、今回のことで行政にも求められていることがある。シビックプライドやブランディングはぴんとこないと思っていたが、今回のことでブランドが傷つけられるということがわかった。

委員

- ・ 当初に比べたらよくできている。子供の貧困について、食堂の話があるが、お金持ちの子どもが何も食べずに学校に来ている。子どもだけでなく、1人暮らしや、仕事が忙しくて食べていない人などもいる。食を豊かにする飲食店をボランティアでやるのは難しい。ソーシャルビジネスになることをまちの人と山間地の人たちを協力してやっていきたい。富山は薬が有名だが、健康寿命を延ばす薬膳は健康な土からできた野菜じゃないとだめ。まちの人と山間地の人が協力して安心して作って食べられる、くつろげるプラットフォームづくりが重要。小学校区にひとつ、そういった場所が必要。地区センターは役所の一部という感覚が非常に強いが、役所の人たちはよく対応してくれている。40年前から始めた健康づくり（スポーツダンス等）が今も続いている。今足りないのは、くつろげて自分の居間のような場所。それをつくらなければいけない。

部会長

- ・ 中山間地と都市部の連携、関係を深めていくことによって新しいものができ、社会的要請にも答えられる。富山市は幸いにもどちらも1つの自治体にある。他の自治体であれば、垣根があつてうまくいかないことが富山市ではできる。地域間の連携を成り立たせるための地域のあり方が政策の方向性、課題にでてくればいい。

委員

- ・ 178 ページ②地域の魅力を活かしたまちづくりで、富山市は、都市のほか広大な農村、富山湾まである全体像を認識したい。多様性がある地域ごとに敬意を。それぞれの性格を持った地域がよい状態になっていくためには、アドバイザーの派遣事業が必要。合併によりやりにくくなっているのであれば問題。地域の魅力を活かすためには、183 ページに人材の育成というところで、アドバイザーに学びながら、人が育つ。今は40代ぐらいでコミュニティづくりの新しいセンスの良いアドバイザーが全国で育っている。そういう人が地域に入るだけでみんなが動き出す。山田や細入は過疎指定があるので過疎交付金が貰いやすいが、富山市は過疎対策をあまりやっていないように感じる。過疎指定がない場所と差があるから問題だという考えもあるが、できるところでやることによって他がついてくることもあり得る。中山間地は中山間地、中心市街地は中心市街地ということでそれぞれが個性を育てることが重要。また、豊かな県庁所在都市では、逆単身赴任者を増やすべき。転勤族が子育てする。そういう人が富山で子育てをすれば安心ということでこちらを本拠地とすれば、人材の多様性が都市にプラスになる。

部会長

- ・ 選ばれる都市としてポテンシャルは高い。レベルが高まって総合力が上がって選ばれる。具体的なプロモーションが重要。

委員

- ・ ボランティアが無料だと達成感が低い。寄付文化が書けないか。

部会長

- ・ その方向性はこれから追及していくもの。純粋なビジネスでも多様化している。高齢者をどう戦力化していくか、フルタイムではなく空いている時間で働くことをベースとしたビジネス、ソーシャルビジネスなどもある。高齢化、人口減少というところで、社会を成り立たせていくためにあらゆる方面にアンテナを張ってその動きを取りこむ。これを個々のセクションにかけていくのか、大きな話に吸収していくか。

委員

- ・ 人口減少化の中で、体外受精児が 21 人に 1 人。晩婚化対策も必要。

部会長

- ・ 人々の意識に訴えていくということと、実際に仕掛けていくということと、切り分けがなかなか難しい。いろいろなやり方の中でチョイスしてこのレベルの政策として提言していくのかどうか難しい。
- ・ 目標とする指標は必ずしも基本政策の全体が達成されれば、指標が達成されるということになっていとは限らない。目標が達成されたからと言って、政策がうまく機能していることにはならない。目標とする指標の選択は難しい。何か考えられるものがあれば考えていただき、なければ指標の意義を確認する必要がある。
- ・ ブランディングとシティプロモーションの概念が共有されているか、役所内でもはっきりしたものがイメージとしてあるのかどうか。特産品のブランド化という話ではない。シティプロモーションも情報発信という話ではない。具体的な施策になった時に、それがどのようにブランディングに関係してくるのか見えにくい。

事務局

- コンパクトシティは市一体として取り組むものである。外側の切り口として農業の活性化があり、健康というキーワードがあって、活性化に結びつけていく。書き方等を検討したい。
- ふるさと美化大作戦は、市民の 6 人に 1 人が参加している。コミュニティの醸成で公民館の機能保持も難しい問題だが、将来市民の負担を減らすためにどのように再編して保持していくかということは、考えていきたい。
- 人づくりについて、職員には現場主義を言っている。今後もきちっとやりたい。
- 寄付文化は育てていきたい。
- 多様性については原点に戻ってできるものは精査していきたい。
- 指標と政策の達成の相関関係についても検討していきたい。
- シティプロモーションについて、見える化を進めることにより理解してもらおう。
- 次回は 10 月 25 日（火）13:30～の開催を予定している。後日改めて案内する。

以上